

「第23回日本臨床環境医学会学術集会特集」

(臨床環境23: 73-75, 2014)

学術集会 (京都) を終えて

— BGM は My favorite things —

第23回学術集会 会長 高野裕久

京都大学 大学院 工学研究科
都市環境工学専攻 環境衛生学講座

皆様におかれましては、新しい年も益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成26 (2014) 年 6 月14日 (土)、15日 (日) の両日に、第23回日本臨床環境医学会学術集会を、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて開催させていただきました。皆様のお陰をもちまして、無事、盛会裏に終了することができました。多くの方々からいただいたご支援、ご協力に、紙面をお借りし、深く感謝申し上げます。

初めての京都での開催ということもあり、約一年半前より、京都大学のシンボルとも言える時計台を、なんとか予約させていただくことができました。古い建物ではありますが、京大らしさ、京都らしさを、少しでも体感していただいたとすれば、大変光栄に存じます。また、土、日の開催ということもあり、多くの皆様方の休日をつぶすことになってしまったことをお詫び申し上げます。加えて、大学生協の休業日にも当たり、昼食でご迷惑をおかけしたのではないかと不安に感じておりました。もしもご不便がありましたら、どうかご容赦ください。

さて、今回の学術集会では、メインテーマを「地球から分子まで、環境と健康を科学する」といたしました。様々な環境要因が我々の健康に与える影響を、広く科学的に明らかにし、その知見を治療や未然防止・予防に連結することをめざし、掲げさせていただいたテーマです。

まず、特別講演では、国立環境研究所の江守正

多先生に、「地球温暖化と人類の選択 ～最新の科学的知見に基づいて～」と題し、地球温暖化という大きな環境問題について、最新の科学的知見を、広範に、かつ、分かりやすく、ご紹介いただきました。私の前任地でもあります国立環境研究所を代表する‘売れっこ’研究者の、外見同様、スマートな発表内容に、皆様方にも、私同様、感動していただいたのではないかと考えております。

シンポジウムでは、第一日目に、「PM2.5 対策と研究の最前線」において、市瀬孝道先生 (大分県立看護科学大学)、内山巖雄先生 (京都大学 名誉教授)、島正之先生 (兵庫医科大学)、早川和一先生 (金沢大学) という、この分野で日本と世界をリードする先生方に、素晴らしいご発表をいただきました。私の専門分野でもありますが、先生方には、これまでのデータに、さらなる新たな知見も加えていただき、PM2.5の環境・健康問題の update を勉強させていただくことができました。テレビでよく拝見する先生方が、一堂に会されたのは、今回が初めてのようにも思います。テレビ中継がなかったのが、残念といえば、残念でした。

二日目を迎え、「歯科における感染症対策」においては、泉福英信先生 (国立感染症研究所)、岩本宏先生 (日本口腔機能水学会副会長・岩本歯科医院) に歯科、歯科臨床現場における環境・感染症対策を数多くのお写真とともにご紹介いただきました。

「建築物における環境汚染・健康影響・そして

改善対策」においても、鍵直樹先生（東京工業大学）、柳宇先生（工学院大学）、阪口雅弘先生（麻布大学）、野崎淳夫先生（東北文化学園大学）という各分野のスペシャリストに、室内環境と健康に関わる諸問題について、様々な角度からご紹介いただきました。素人とも言える私にも分かりやすく、興味深いご発表をいただきました。

一方、京都大学『知の越境』融合研究プログラム「統合創造学創成プロジェクト」との共催企画講演も企画させていただき、「倫理学の視点からのリスク論」を森下直貴先生（浜松医科大学）にお願いいたしました。いわゆる理系に偏りがちな医学会の中で、倫理学に関するご講演をいただいたことは、皆様にも大変新鮮に感じられたのではないのでしょうか？

もちろん、一般講演、ポスターセッションでも数多くのご発表と活発なディスカッションをいただきました。ポスター会場では、企業展示ブースを設けることもでき、日ごろあまり目にもしない機器や製品を拝見させていただくこともできました。関係する企業の皆様にも、深く感謝申し上げます。

懇親会では、京都らしさを実感していただけるような料理を、なるべくご用意させていただいたつもりです。少しでも、京都を体感していただけたとすれば、幸いでありませう。その一方、日本酒

は、my favorite things をそろえてしまいました！京都のお酒を飲みたかったのに！！という方には、大変申し訳ありませんでした。また、研究室の学生の伝手を頼り、催し物もご準備させていただきました。相澤先生の詩吟は想定外でしたが、皆様とともに、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。

会長賞は、東京都健康安全研究センターの斉藤育江先生が、奨励賞は、東海大学医学部の寺山隼人先生が受賞されました。今後も、お二人の先生方の日本臨床環境医学会におけるご活躍に期待いたします。

二日間を通し、会場を埋める多くの方々が途絶えることもなく、熱心に発表を聞いておられたことには、正直を申しまして、驚きとともに感動いたしました。多くの患者さんも、最初から最後まで、熱心に耳を傾けておられたようにも思います。本学会の大きな特徴を、今回の学術集會も踏襲することができたのではないかと、少し安堵いたしております。

最後に、ご支援、ご協力をいただきました、法人、企業や個人の方々、そして、ご参加いただいた多くの方々に、深く感謝申し上げつつ、今後の学会と来年度の学術集會の更なる発展をお祈り申し上げます。

